

令和5年度 第3回春日市教育委員会定例会 議事録

1 開会及び閉会に関する事項

- ① 日 時 令和5年6月28日(水)
開会 午前9時00分
閉会 午前10時24分
- ② 場 所 春日市役所4階405、406会議室

2 出席委員の氏名

教 育 長	扇 弘 行
委 員	安 本 誠 一
委 員	染 原 レイ子
委 員	宮 崎 泰三郎
委 員	足 達 好 子

3 委員を除き会議に出席した者の職氏名

教 育 部 長	金 堂 円一郎
教育総務課長	武 末 竜 久
学校教育課長	今 福 保 幸
地域教育課長	萩 原 裕 之
教育総務課長補佐	小 嶋 健 朗
教育総務課主任	松 尾 高 志

4 議事の概要

別 紙

午前9時00分 開会

【第1 会議録署名委員の指名】

○扇教育長

委員全員出席です。ただいまから令和5年度第3回春日市教育委員会議定例会を始めます。

始めに、会議録署名委員の指名を行います。足達委員を指名いたします。

【第2 報告事項】

(1) 事務局報告

○扇教育長

令和5年度教育費補正予算について、事務局から報告をお願いします。

○武末教育総務課長

4月26日の教育委員会で説明しました令和5年度教育費関連補正予算について、6月議会で可決いただいておりますので、報告いたします。

事前の説明と変更になった箇所を説明いたします。

歳入について、教職員研修が公立学校共済組合の職場の健康づくり支援事業に該当しますので、助成金を追加で計上しております。

歳出について、学校給食食材高騰補助金を5月臨時会に計上予定と説明しておりましたが、6月定例会の方で計上することとなりました。金額については変更ありません。報告は以上です。

○扇教育長

春日市議会6月議会期間における一般質問について、事務局から報告をお願いします。

○武末教育総務課長

春日市議会6月議会の一般質問で、7人の市議会議員から、8項目の質問を受けております。質問及び回答の内容につきましては、資料についているとおりでございます。報告は以上です。

【第3 不登校等総合対策5カ年計画（Ⅲ） 令和5年度から令和9年度について】

○扇教育長

不登校等総合対策5カ年計画（Ⅲ）、令和5年度から9年度にかけての計画についてです。

先日、久留米大学の学長であり日本睡眠学会理事長でもある内村直尚氏の子育て講演を受講いたしました。

講演中、膨大なデータを基に示されたものの1つが、基本的な生活習慣が確立していないと、不登校となる可能性が高くなるといったことでした。

また、同時期に、子育てや教育関連の執筆、講演等を行っている松居和氏の講演を受講し、著書も読みました。その中で、子育てを中心とした親育ちの話がありました。子育てをしていく中で親自身も成長し、親子の関係性を築いていくことが、子の人間的成長に重要であるということでした。

両氏の講演や著作の内容が、不登校対策として参考になる部分が大いにあるのではないかと考えております。

資料を御覧ください。令和4年度の不登校数がありますが、令和2年度以降急激に増えていることが分かります。令和5年度、令和6年度がどのように変化するか注目しております。

特別支援学級数の推移をグラフで表していますが、不登校数の推移と同様の動きをしています。不登校問題と、特別支援学級在籍児童、いわゆる特別支援教育は関連しているかと考えられます。

また、小学校1、2年生の不登校が増えています。小学校入学時での不適応を減らす取り組みが保育所等で非常に重要になるととらえております。

現在、保育所等で保育士1人が多くの子どもを見てあるところでは、日々の保育だけでも大変な状態だとは存じておりますが、幼保小連携のアプローチカリキュラムの一環として、簡単なひらがなの勉強とか足し算引き算の学習を、小学校への進学を見据えた計画を立てて実施することが、求められるのではと考えております。

教育委員会の未就学児へのアプローチとしては、例えば、英語教育の導入としてALTを派遣することも良いのではないかと考えております。学校での教育の前に、英語に触れて遊んだり、挨拶をしたり、子ども達が英語は楽しいと感じる体験が大切ではないかと考えております。

幼保小連携の中では、幼稚園と保育所、教育と福祉の垣根を越えたような実践が求められると考えているところがございます。

不登校等総合対策5カ年計画で、これまで中学校では、スマイルルームを作って、不登校専任教員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや特別支援教育支援員等の配置をしております。これらの対応を、今後は小学校の方に重点化しようと考えております。

小学校では、現在6名配置している教育相談員を順次12名に増やし、空き教室がある

学校から順にスマイルルームも開設していきたいと思っております。

今年度から、特別支援教育の充実のため、学校教育課に新たに指導主幹を配置しております。

小学校段階における特別支援学級、情緒の特別支援学級の充実を図りたいと思っております。中学校では、情緒学級を3年生まで開設をしておりますけども、その後の高校では集団になりますので、それまでに集団に対応する力を本人が身に着けておかないと厳しいのではないかと。このため、中学校3年生まで情緒学級というのではなく、できれば中学校1年生までに、実践力を持った先生が適切に対応し、その後は減らしていければと考えております。

そのような中学校の取組みのためにも、小学校において、低学年のうちから重点的に対応していくことが重要だと思っております。

また、こども支援部の言語聴覚士等の専門職員を、就学前児童が在籍する施設に派遣し、4歳児5歳児、保護者や保育士と面談をして、専門職員からアドバイスができるような仕組みができないかと考えております。

次に、幼児教育指針を本年度中に作成したいと思っております。

保育所、幼稚園でもそれぞれ指導要領がございますが、春日市としての教育指針を示し、就学前児童が在籍する施設全体が、同じ方向を見て欲しいと思っております。

それから、小1プロブレム、小4プロブレム、中1プロブレムの問題解消に向けた積極的対応策を推進したいと思っております。

不登校等実態調査について、情報分析を行い、不登校対策に役立てたいと考えております。今回の計画では、中学校から小学校へ不登校対策の重点をシフトするという大きな柱と、就学前教育施設等へのアウトリーチ型の支援、この大きな2本柱で進めていきたいと考えております。

各委員さんから御意見等はありませんか。

○安本委員

不登校となる原因を探ることが必要なのではないかと思います。

資料では年度別に学年ごとの不登校児童数をまとめていますが、年度が進むと学年も1つ上がることとなりますので、同じ学年を年度別に見るよりも、階段状に見ていく方が児童数の推移を追いやすいかと思います。実際に不登校児童数が増加する年度よりも前に、その兆候があるのかもしれませんが、人数が少ないうちに解消できれば一番良いと思います。

また、小学校6年生と中学校1年生の数字を見ると、以前から言われている中1ギャップが未だにあることを感じました。

教育長が説明された、未就学児へのアプローチですが、保育所や幼稚園等の子どもに求め過ぎるような内容にならないようにしていただきたいと思っております。ひらがなや簡単な足し算引き算はいいのですが、英語の必要性は疑問に感じます。

○扇教育長

不登校に関して、1人の子どもの例ですが、遅刻や欠席がかなり多い状況がありまして、次の学年に上がった4月から5月も、遅刻欠席が多くあったのですが、それが徐々に少なくなり、解消されていったことがありました。学校からの報告では、父親が不登校の兆候の実態を理解して、子どもに働きかけるようになったということだったのです。

こういったケースも1つのヒントになると思っています。

また、未就学児の英語教育ですが、小学校で英語活動が始まるに当たり、少しでも英語に触れておくといったイメージで、子どもが英語に対して楽しい感情を持つことができると考えています。ALTの派遣にこだわらず、小学校の先生が幼稚園等に出向き、英語に関する話をすることでも良いのではと考えています。

先ほど申し上げた内村学長の話で、睡眠時間が非常に大切であるとの内容がありました。午後9時までに寝る子とそれ以降に寝る子では、学力や体力が違うといったデータが出ています。基本的な生活習慣です。早く寝て、朝は早く起きて、しっかり朝食を食べる。そのような生活リズムが整っている子は、落ち着いて生活できるし学力も体力もついているということです。

反対に、生活習慣が乱れたまま生活を続けている子どもは、落ち着きがなくなり、発達障がいと間違われる可能性があるというのが、同氏の本には書いてあります。

基本的な生活習慣を身に付けるというのは、今後打ち出していきたいと思っています。

○染原委員

現在の日本が核家族化している影響はあるのではないかと思います。何かの用事の際に子どもを預けるような場合でも、祖父母よりも施設を利用した方が気を遣わないといったことも耳にしますが、3世代が同居していた時代と比べ、家族の関係性が希薄になっているのではないのでしょうか。

子ども達の発達支援に携わっている時に、父が夜遅くに帰宅して、ゲームを始めると、子どもも面白いから一緒に夜明けまでそれをやるけれども、父は注意もしないといった家庭がありました。また、夜に子どもがスマートフォンを一定時間見なければ寝ないといった家庭もありました。どちらも少数の家庭ではあるかと思いますが、そういった生活習慣を親が認めてしまっている状況があります。親が子どもにどう向き合っているか、例えば、買い物に行くと3歳ぐらいの子が母親の手を引いて呼んでいるけれど、親はスマートフォンを見たまま何も反応してあげていないという状況をよく目にします。

親の力を育てることが必要だと感じています。親が子に向き合って、しっかりと受け止めることからだと思います。

ただ、極端な例として、何かあった時に子の言うことしか信じないで学校に苦情を申し立てる親がいることもありますので、適切な親と子の向きあい方、また、見守ってくれて

いる先生との関係を築いていくことも必要かと思えます。

教育長の話にありましたような講演会にしても、自主的に参加する家庭は基本的な生活習慣ができていないのではないかと思います。本当に必要とする家庭に、どのように届けていけばいいのか。生活習慣や親子の関係性等、危機感を感じています。

○扇教育長

P T Aが以前から推進している早寝早起き朝ご飯の取組みも基本的な生活習慣を身に付けるためのものです。春日市はコミュニティスクールですので、学校、自治会、P T A等で構成される学校運営協議会があります。そこで熟議をしてもらうのが一番良いと思います。不登校と今の家庭の状況、子ども達の姿から、地域も含めて、基本的な生活が実際どうなっているのか、様々な角度から論議をして、春日市全体で取り組んでいけたらと思います。

○足達委員

現場で子ども達を見ている中で、相手が自分の言葉にどう感じるかを考えないまま、口に出しているのではと思われる状況があります。言葉の意味、話し方も学んで欲しいと思います。

例えば、話を聞いてくれそうな大人にずっと話し掛けてきたり、べったりくっついてくる子がいます。もしかしたら、親子での会話が少ないのではないかと、親が子どもの話をしっかりと聞いているのか、心配になります。

先ほど話に出ました学校運営協議会に、私も入っております。10年間参加しており、当初に比べ、地域の参加が多くなっているように感じます。会議の中で、それぞれの地域のことを聞き、まとめるには、時間がかかります。活発な状況は喜ばしい反面、なかなかP T Aの意見まで拾えていない印象はあります。

また、子ども達にはもっと地域行事に参加してもらいたいです。学校とは違った、他の世代とも触れ合って欲しいですし、地域のことを知ってもらい、体験して欲しいです。

○宮崎委員

幼稚園や保育園、学校をサービス業として考えている親がいるように感じます。親になることがどういうことなのか、分からないまま子育てをしているのではないのでしょうか。

今の子供たちには、親になるということの教育が必要なかもしれません。例えば、中学校の家庭科の授業で、子育て支援課と助産師が授業に入り、男子生徒が赤ちゃんと同等の重りの入った抱っこひもをつける体験等をやっているところもあります。そういった教育から、親になることや、子育てということに目が向いていくのかなと思います。

○安本委員

教育長が説明された5カ年計画ですが、基本的に賛成いたします。この計画の中で、幼

児教育指針の作成というものがあります。この指針の中で、小学校に入るまでにどの程度学習をしておくといったものはあるのですか。

○扇教育長

幼児教育指針を作っている自治体は、まだ多くありません。

春日市の指針は、なるべくシンプルに、保育園も幼稚園も含めて、みんなで同じ方向を向きましょうという発想で作成したいと考えています。例えば、仙台市教育委員会の幼児教育指針が参考になるのではないかと思います。

内容としては、生活リズムを整えること、朝ごはんを食べること、運動や読み聞かせを推奨していくこと等を考えています。

○足達委員

0歳児に配付するファーストブックがありますが、幼稚園、保育園児に向けたセカンドブックのようなものがあると良いのではないのでしょうか。保護者が読み聞かせをすることが増えるのではないかと思います。

○扇教育長

幼児教育指針については、大きな方針となるものなので、継続して協議していければと思っております。

○金堂教育部長

本日、教育長が不登校等総合対策5カ年計画の抜粋を共有させていただきました。現在は計画の始めであり、これから総合計画として教育委員会から市長事務局に、事業説明を行う上での根幹となるものであります。

また、今後、子育て支援、幼児教育を所管することも支援部と、教育委員会との関係性を深め、相互に理解を促進していくことが重要となります。例えば、教育委員会議にこども支援部の職員が参加して、意見交換をする場を設けることもあるかと思います。

5カ年計画であるという状況を押さえ、今後の日常活動の中等で、気づいたことがあれば共有していただき、より良い計画としていきたいと思っております。

○扇教育長

主要行事報告をお願いいたします。

○武末教育総務課長

7月の行事です。7月から教育長の出前トークが始まります。教育委員の皆様も御都合が付くようでしたら、出前トークにお越しいただければと思っております。

以上です。

【第4 調整事項】

- (1) 7月定例教育委員会議の日程について
令和5年7月27日（木） 午前9時 決定
- (2) 8月定例教育委員会議の日程について
令和5年8月29日（火） 午後1時 予定
- (3) 7月教育委員懇談会の日程について
令和5年7月27日（木） 午前10時 決定
- (4) 8月教育委員懇談会の日程について
令和5年8月29日（火） 午後2時 予定

午前10時24分 閉会